

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402010		
法人名	有限会社 セルフサポート有明		
事業所名	グループホーム暖 A棟		
所在地	〒859-1216 雲仙市瑞穂町古部乙771番地8		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用部がゆったりとしていてリビングから海と空・農作業の様子がよく望まれる為か、「気分が晴れる。」と強要はしていないが、殆どの方がリビング等で日中過ごされている。前庭も芝庭になっておりランチやおやつを楽しんだりしている。(ウッドデッキも同様に使用)また21年度にホーム内をオール電化に整備し、一層火災が起こらないよう、入居者・職員共に安心して過ごせるように改善した。3月中には、スプリンクラーも整備完了となる。女子職員が大半を占めるので、外部からの進入予防もありセンサー等も整備し、「安心安全なホーム」にも取り組んでいる。利用者の皆様には、毎日日課として、リハビリ体操をして頂いており毎日の楽しみとされている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1F
訪問調査日	平成22年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雲仙市瑞穂町の国道沿いに位置し、リビングからは利用者がこれまでの暮らしの中で目にされたであろう畑や山の緑、打ち寄せる波も見えゆくりと時間が流れている。有明海に沈む夕日は、利用者は勿論のこと管理者、職員の心の安らぎにも繋がっている。恵まれた環境の中で、利用者が洗濯物をたたんだり職員と一緒に草むしりをされる等の役割を持ち生活している。秋の文化祭に出品する作品を一人ひとりのペースに合わせて毎日こつこつと取り組む支援を行っている。事業所内にも、利用者を大切に思う気持ちから自然に目に入る場所に暖かな絵が多く飾られている。職員はイベントがある度に、オリジナルのパフォーマンスを楽しみながら行い、利用者や家族の方にも大変喜ばれている。利用者がいかに快適に過ごして頂けるかの居場所作りに熱心に取り組んでいるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時理念を唱和して、気持ちを仕事モードにしている。	利用者と同じ目線で向き合うことを大切にし、その時の気持ちにより沿い、ゆったりとした支援を行うように努めている。玄関やリビングに利用者に直接書いて頂いた理念を大事に掲げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物、地域の行事(弘法大師のお祭り・相撲大会等)へのお誘い参加。自治会に参加。	地域の行事に積極的に参加や見学を行う中で、相撲大会では土俵作りのお手伝いも行うなどの取り組みもある。また、自治会の清掃に参加したり、中学校の福祉体験を受け入れる交流にも取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問時相談に応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時は、充実した話し合いが行われているが、現状開催回数を2ヶ月に1度というのは、その時々の入居者の対応に追われ、会員への対応が困難な時が多い。	運営推進会議は自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表等で構成し、活発な意見交換が行われており、交流の場としての役割も果たしているが、2ヶ月に一度の開催には至っていない。	参加者の日程の調整が難しいという面もあるが、日程を調整する等の工夫を行い、定期的な開催となるような取り組みを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括担当者等連絡している。広域圏組合に訪問時状態報告もしている。	疑問や手続きに関する事などはその都度、問い合わせを行っている。利用者の現状を伝えることで、共有にも繋がり利用者を知って頂く良い機会となっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないよう代替の良い方法等カンファレンス時等に話し合い実践している。	外出傾向がある利用者には、職員が見守りながら一緒に散歩する等の対応をしている。利用者の行動を制限することのないように日々の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、参加出着なかった(当たらなかった)が毎年推進の研修会に2人づつ、参加させている。またその後、報告会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括等主催の研修に参加したり、実際2名の権利擁護事業を活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各自面談している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に報告している。要望等あった時は、すぐにミーティング時報告話し合いをして、理解して頂かなくていけないことや改善をしなければいけないことなど運営に反映させている。	敬老会の後、行われている家族会や家族の面会時に利用者の状況を報告する中で、意見や要望を積極的に聴取するよう努めている。利用者との日常の会話や表情などから言葉にならない要望を読み取り運営に繋げている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、主任や職員と話し合う機会を設けており(定期的なミーティングや相談など)すぐ対応できるようにしている。	管理者と職員が意見交換を行う「気づきノート」を職員各々に一冊用意している。ノートは情報を共有しながら、一日の業務の振り返りにもなり、大変役に立っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップシートなど活用している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	勤務を考慮しシフト作成し、資格取得のための研修に行きやすいようにしている。また経験等を考慮し、研修に行ってもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・広域圏・市の合同研修に多数参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら上手に訴えられる事ができない方も多いため、日々の状態を見ながら察してケアに結び付けている。家族からも聞きだしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと時間を作っていただき、計画作成者や看護師等も交えて話し合う場を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	高専賃や特養等の情報も伝え、最適なサービスへと結び付けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限りできられることを支援している。洗濯物干し・たたみ・掃除・料理作り・花作り等。また近所のスーパーで入居者だけの買い物もして頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒にどうしたら危険なく過ごせられるか等一緒にアイデアを出し合いながらケアにつなげている。また、美容師の家族が他者の髪の毛もカットして下さる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法事への参加への送り迎え等親戚の方との調整を行った。息子さんの所へのお見舞い。馴染みの美容室への支援等。	希望があれば、利用者によって思い思い作成された手作りの芋版で年賀状を出す支援を行っている。冠婚葬祭も依頼があれば、参加のための支援を行っており家族の方にも喜ばれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置を替えてみたり、職員や他の入居者を仲介にしたりして対応行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在も近くを通られた時は、寄って近況を伝えてくださる。また病院からも状態を教えてください。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のお参りや家族への電話取次ぎ・買い物など希望に沿って支援している。	親しみのある山に向かって毎日のお参りを継続されてきた利用者には、見守りながらお参りの支援を行っている。利用者一人ひとりの思いを大切に希望に沿うケアを常に心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネとの連絡を密にし、入所後もケアマネにも尋ねより良い支援に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しばらく様子を見て、また試してみてもできること等を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者会議を行い作成している。毎月モニタリングしている。	毎月の会議の中で、職員全員で情報交換を行い前回のケアプランの検討を行っている。モニタリング表を作成して職員全員で話し合い、評価の記入を利用者毎の担当制にしてケアの向上に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録がある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院付き添い。買い物・ドライブ・役所関係の手続き等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	権利擁護事業の利用。ボランティアの活用。近所のスーパーの方の協力。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3ヶ所の病院からの往診をして頂いている。往診いただいていないかかりつけ医への受診も家族と協力の元支援している。	要望があれば、月に1回または2週間に1回の協力医の往診も可能である。かかりつけ医の継続支援を行っており、家族の同行をお願いしているが緊急時や依頼があった場合は職員が同行している。受診の際はファイルに記録を行い、双方の連絡を密に行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録に取ったり、看護師休みの時も気づいたことがあれば、電話し相談・指示をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が付き添い状態報告をし、病院ソーシャルワーカーや医師・看護師と良く連絡しあい、早期の退院につなげている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望をその時々で聞いている。また医師と家族の話し合いの場も作ってもらい直接希望等も伝えて頂くようにしている。	往診可能な協力医と24時間対応可能な連携を構築し今年度も2件の看取りを経験している。看取りに関する指針をもとに利用者の意向、家族、主治医との相談を密にしながら取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年は消防の方に来ていただいて、全員参加で行ったが、今年度は行っていない。マニュアルを作成している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・地震・水害訓練を消防署の指導の元行った。	災害対策には特に注意を払い、各ユニット共にスプリンクラーを設置しオール電化にした。今年度も消防署立会いの下訓練を行い、事業所の中で救命法の講習を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の元、気をつけて対応している。	事業所から離れた場所での情報の取り扱いについての指導が徹底されている。年長者として尊敬の念を持って接し、言葉掛けにも注意を払い大切に思う気持ちが自然と伝わってくる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定は常に利用者にあるという想いで対応行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場合によっては、日中9名を3.4人での職員で対応できない場合もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に連れて行ったり、出かけられる時や行事の際は、希望者に化粧の手伝いをしたり気持ちにうるおいができるような支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・配膳・片付け等して頂いている。時にはオードブル形式・外食なども行っている。	下準備を手伝って頂いたり、一緒に買い物にお連れしたりして食事に関心を持って頂く支援を行っている。目で見て楽しい食事を提供し、職員と共に安心してゆったりと利用者のペースにあわせて支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ剤・ミキサー食等食べやすさに注意し提供している。食事が進むよう各自メニューにも気をつけ提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂いている。また介助行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立つことができられる人は、トイレでしていただくよう排泄チェック表をつけ誘導している。現在日中は全てトイレでしてもらっている。	日中は利用者全員にオムツに頼らないトイレでの排泄支援を行っている。夜間もほとんどの利用者にトイレでの排泄支援を行っている。根気強いさりげない誘導や、管理者と職員のトイレでの排泄を大切にしている思いが伝わってくる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給に気を付けている。毎日リハビリ体操を行い体を動かしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今の利用者のレベルでは、職員の対応が難しく夜間の入浴はできていない。入浴嫌いの方には、調子がいい時をみてすぐ入ったりできるように午前中からお風呂の準備を行っている。	週に3、4回の入浴支援を行い、希望があれば、毎日入浴することも可能である。利用者のその時の気分を察しながら、無理強いをしないように工夫して対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、温かな飲み物を提供したり、他者の様子を見ながら、居室で傍に付いたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をもらい全員が見れるよう各自のケアファイルに綴じている。また朝夕の申し送り時状態報告を行い看護師・DR.への報告も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての人に役割を持ってもらい、それができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敬老祝賀会は、雲仙の九州ホテルに日帰り温泉旅行(園芸会含む)を家族も参加していただき行った。バスで迎えに着てくださりバス旅行の気分も味わうことができた。	希望があれば、隣のスーパーへの買い物も毎日可能であり、スーパーの方とも顔馴染みとなっている。花見等のイベントやドライブにも交代で出かけており、芝庭でランチをしたり、自由に草むしりをされたりと外気に触れることが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があるが他に希望がある方は、本人が持っていていっしょり自分で管理されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいる。手紙をかかれた場合は出して差し上げている。年賀状を皆さん家族にかかれた。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛人形を飾ったり、季節の花を飾ったりして季節感を感じてもらっている。居室には自分の部屋と分かるように写真や表札を付けている。	両ユニット共に利用者が快適に暮らせる様に設計されており、明るく広々したりリビングに自然と集まり寛いでいる。自然の光を感じながら窓の外からの景色で時の流れや季節の変化を感じ取る事ができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり和室があったり、思い思いのところで過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ってこられている方とこられていない方との差がある。	利用者がこれまで大切にされてきた思い出の品々を持ち込まれ、その人らしさが伝わってくる居室となっている。利用者の好みに合わせてすっきりとした部屋がお好きな方に対しての配慮も行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にはかまちを設けている。他は段差が無い。手すりあり。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402010		
法人名	有限会社 セルフサポート有明		
事業所名	グループホーム暖B棟		
所在地	雲仙市瑞穂町古部乙771番地8		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1		
訪問調査日	平成22年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter) + (Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時理念を唱和している。また、管理者とひとりひとり面談を行い理念を含め実践につながる努力をしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの買い物、地域の行事(弘法大師のお祭り・相撲大会等)へのお誘い参加。自治会に参加。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に研修等は行っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議は、入居者が重度となるとケアにかかる時間がほしいため開催が厳しい。開催後は、常時ミーティング時報告している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括担当者等連絡している。施設長等により連絡してもらうことが多い。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないよう代替の良い方法等カンファレンス時等に話し合い実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、参加できなかった(当たらなかった)が毎年推進の研修会に2人ずつ、参加させている。またその後、報告会を行っている。言葉の拘束とならないよう注意してケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括等主催の研修に参加したり、実際2名の権利擁護事業を活用している。(各当1名づつ)		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各自面談している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に報告している。要望等あった時は、すぐにミーティング時報告話し合いをして、理解して頂かなくていけないことや改善をしなければいけないことなど運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、主任や職員と話し合う機会を設けており(定期的なミーティングや相談など)すぐ対応できるようにしている。また1月には、各職員と個人面談を行った。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任の権限を明確にしてあり各職員も担当(広報・環境・苦情・備品消耗品管理・レク)が決まっておりケアだけでなく、職場での役割も各自担っている。有給も比較的取りやすい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務を考慮しシフト作成し、資格取得のための研修に行きやすいようにしている。また経験等を考慮し、研修に行ってもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・広域圏・市の合同研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら上手に訴えられる事ができない方も多いため、日々の状態を見ながら察してケアに結び付けている。家族からも聞きだしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと時間を作っていただき、計画作成者や看護師等も交えて契約時等に設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	高専賃や特養等の情報も伝え、最適なサービスへと結び付けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限りできられることを支援している。洗濯物干し・たたみ・掃除・おやつ作り等。また近所のスーパーで買い物もして頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒にどうしたら危険なく過ごせられるか等一緒にアイデアを出し合いながらケアにつなげている。また、美容師の家族が他者の髪の毛もカットして下さる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法事への参加への送り迎え等親戚の方との調整を行った。息子さんの所へのお見舞い。馴染みの美容室への支援等。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置を替えてみたり、職員や他の入居者を仲介にしたりして対応行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在も近くを通られた時は、寄って近況を伝えてくださる。また病院からも状態を教えてください。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のお参りや家族への電話取次ぎ・買い物など希望に沿って支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネとの連絡を密にし、入所後もケアマネにも尋ねより良い支援に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しばらく様子を見て、また試してみてもできること等を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者会議を行い作成している。毎月モニタリングしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録がある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院付き添い、買い物・ドライブ・役所関係の手続き等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業の利用。ボランティアの活用。近所のスーパーの方の協力。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>3ヶ所の病院からの往診をして頂いている。往診いただいていないかかりつけ医への受診も家族と協力の元支援している。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>記録に取ったり、看護師休みの時も気づいたことがあれば、電話相談・指示をもらっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は必ず職員が付き添い状態報告をし、病院ソーシャルワーカーや医師・看護師と良く連絡しあい、早期の退院につなげている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族の希望をその時々で聞いている。また医師と家族の話し合いの場も作ってもらい直接希望等も伝えて頂くようにしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>昨年は消防の方に来ていただいて、全員参加で行ったが、今年度は行っていない。マニュアルを作成している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練・地震・水害訓練を消防署の指導の元行った。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の元、気をつけて対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定は常に利用者にあるという想いで対応行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場合によっては、日中9名を3.4人での職員で対応できない場合もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に連れて行ったり、出かけられる時や行事の際は、希望者に化粧の手伝いをしたり気持ちにうるおいができるような支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・配膳・片付け等して頂いている。時にはオードブル形式・外食なども行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ剤・ミキサー食等食べやすさに注意し提供している。食事が進むよう各自メニューにも気をつけ提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂いている。また介助行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立つことができられる人は、トイレでしていただくよう排泄チェック表をつけ誘導を行っている。現在日中は全てトイレでしてもらっている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給に気を付けている。毎日リハビリ体操を行い体を動かしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今の利用者のレベルでは、職員の対応が難しく夜間の入浴はできていない。入浴嫌いの方には、調子がいい時をみてすぐ入ったりできるよう午前中からお風呂の準備を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、温かな飲み物を提供したり、他者の様子を見ながら、居室で傍に付いていたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をもらい全員が見れるよう各自のケアファイルに綴じている。また朝夕の申し送り時状態報告を行い看護師・DR.への報告も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての人に役割を持ってもらい、それができられるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敬老祝賀会は、雲仙の九州ホテルに日帰り温泉旅行(園芸会含む)を家族も参加していただき行った。バスで迎えにきてくださりバス旅行の気分も味わうことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で管理できるレベルの方はひとりだけ。しかし金銭感覚ない。他は預かり金として対応しているが、買い物に行かれた時は、各自に持っていただき支払いをして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を皆さん家族にかかれた。水から電話を掛けようとされない。(導いても)「耳が遠い。」と言われる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛人形を飾ったり、玄関に季節の花を飾ったりして季節感を感じてもらっている。居室には自分の部屋と分かるように写真や表札を付けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり和室があったり、思い思いのところで過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ってこられている方とこられていない方との差がある。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にはかまちを設けている。他は段差が無い。手すりあり。		